

研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB		持続的な森林経営を実現するための森林認証制度の国際比較に関する調査・研究			
研究テーマ (欧文) AZ		Investigation and research on international comparison of the forest attestation system for realizing sustainable forest management			
研究氏 代 表 名 者	カナ CC	姓) クロタキ	名) ヒデヒサ	研究期間 B	2004 ~ 2006 年
	漢字 CB	黒瀧	秀久	報告年度 YR	2006 年
	ローマ字 CZ	KUROTAKI	HIDEHISA	研究機関名	東京農業大学
研究代表者 CD 所属機関・職名		東京農業大学生産学部・教授			
<p>概要 EA (600字~800字程度にまとめてください。)</p> <p>本研究は、環境問題と林業活性化の課題という2つの側面を統合し、「林業と環境の両立」の視点から環境循環型社会構築の可能性を探るために、持続的な森林経営の実現を目指す「森林認証制度」に着目して、国際的視点から比較制度的に研究を行ったものである。今日、世界的に普及が進みつつある森林認証制度を国内及び先発地域である海外調査を行ない、わが国において森林認証制度の持つ効力を最大限に発揮させる方法を探ることを目的として研究を行った。</p> <p>世界的にはFSCとPEFCを中心に認証森林が拡大しているが、実態は制度的性格や認証制度のレベル等もそれぞれ異なっており、単に認証を取得すればレベルの高い持続的な森林経営と言うことができないということを理解しなければならない。FSCは認証取得が難しく高いレベルでの制度であり、PEFCは比較的小規模な林家でも認証を取得しやすく、さらに認証コストも安価で済ませられる傾向にあり、スタンダードのレベルもFSCと比較すれば“安易な”ことが問題である。</p> <p>一方、国内の森林認証は、国際的なFSCとSGECの2つの制度が存在し、どちらも徐々に認証を拡大してきている。国内の先進地域ともいえる構原町では、FSC認証を軸としたシステム形成のもとで、「環境に配慮した森林経営」という大きなテーマを掲げて官民が一体となって取り組みを進めることで、地域活性化を実現している。また北海道網走地域では、森林認証の取得と普及発展のために協議会を立ち上げ、地域や流域として連携をとった取り組みの成果をあげ始めている。これらの取り組みは国内の森林認証の事例の一部ではあるが、このような地域からの一つ一つの取り組みが、森林認証制度を普及させ「環境配慮型の森林経営」を浸透させていくことに繋がっていくことになるであろう。</p> <p>日本全国の森林認証取得者に行なったアンケート調査によると、認証取得費用と効果の問題では認証取得者が考えているものと実態には大きな隔たりがあることから、今後の改善が求められていくものと考えられる。特にコストの問題では、事業者は実際の半額程度が認証取得コストとして相応しいと考えており、認証取得コストを制度的な“質”の低下なしに低減できれば、認証取得者はさらに増加することが見込まれる。また認証取得の効果は、林家や企業の材価上昇などの経済性に直接結び付きにくいという事例が多く、いかにして経済性向上に繋げていくことができるようになるかが今後の大きな課題である。</p> <p>いずれにせよ森林認証を普及させるためには、認証森林が増加して認証材が市場に多く出回る必要がある。また、将来的に認証森林には今後創設される環境税から得た交付金を交付して、認証森林の拡大や維持など費用に充当する等の新たな拡大・支援政策の展開も視野に入れて取り組んでいくべきであろう。こうした事象を踏まえてさらに環境配慮が求められるようになり、低迷する日本林業の再活性化を目指す潮流を創り上げていかなければならない。ゆえに日本国内では「世界的に認められている環境配慮に優れたFSC」と「環境に配慮した国産材のSGEC」というように上手く制度的な棲み分けを行いながら、“環境”というキーワードを最大限に活用して、日本林業の新たな活性化に資していくことが重要であるという結論に到達した。</p>					
キーワード FA	森林認証制度	持続的な森林経営	国際比較	流域林業活性化	

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA					研究課題番号 AA						
研究機関番号 AC					シート番号						

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>	森林認証の取得と流域林業活性化の課題							
	著者名 <sup>GA</sup>	佐藤孝弘・黒瀧秀久	雑誌名 <sup>GC</sup>	東京農業大学産業経営学会「オホーツク産経論集」					
	ページ <sup>GF</sup>	115～142	発行年 <sup>GE</sup>	2	0	0	6	巻号 <sup>GD</sup>	15巻第2号
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>								
	著者名 <sup>GA</sup>		雑誌名 <sup>GC</sup>						
	ページ <sup>GF</sup>	～	発行年 <sup>GE</sup>					巻号 <sup>GD</sup>	
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>								
	著者名 <sup>GA</sup>		雑誌名 <sup>GC</sup>						
	ページ <sup>GF</sup>	～	発行年 <sup>GE</sup>					巻号 <sup>GD</sup>	
図書	著者名 <sup>HA</sup>	持続的な森林経営を実現するための森林認証制度の国際比較に関する調査・研究							
	書名 <sup>HC</sup>	黒瀧秀久・根津基和・佐藤孝弘							
	出版者 <sup>HB</sup>	東京農業大学環境経済学研究室	発行年 <sup>HD</sup>	2	0	0	6	総ページ <sup>HE</sup>	82
図書	著者名 <sup>HA</sup>								
	書名 <sup>HC</sup>								
	出版者 <sup>HB</sup>		発行年 <sup>HD</sup>					総ページ <sup>HE</sup>	

欧文概要 EZ

This study paid its attention to "forest certification system" to aim at realization of sustained forest management and studied it from a viewpoint of international comparison.

I am for the purpose of investigating a method to let you show the effect that a forest certification system of our country has from the inside where the country and foreign countries investigate a forest certification system spreading worldwide to the maximum.

The certification forest spreads mainly on FSC and PEFC worldwide, but a level and character of a system are different, and each system holds many problems each.

On the other hand, there are two systems of international FSC and SGEC, and the domestic forest certification enlarges the certification slowly both and begins to give result such as area activation in an area taking up by this report.

According to the questionnaire survey, we have a big problem by acquisition of certification expense and a problem of an effect.

Expense real half price degree certifies it by a problem of expense, and to acquire is expected.

It is a problem that I can join an effect of the acquisition of certification together for a valuable effect economically.

It will be necessary for the certificated forest increases, and the certificated materials to be sold a lot in a market in future to spread the forest certification.

More environmental consideration becomes demand in the future, and sluggish Japan forestry must aim at revival.

Therefore I am good, and that I perform niche segregation in nature is demanded like "FSC superior in environmental consideration accepted worldwide" and "SGEC of the domestic lumber which environmental considered" in Japan.

And it is thought that it is important that it inflects in the environmental keyword maximum and aims at activation of Japanese forestry.